

**超高齢化社会  
変わる、高齢者福祉**

---

特別養護老人ホームさの

皆さんは

**「2025年問題」**

をご存知ですか？

# 2025年問題とは？

2025年(令和7年)、いわゆる「団塊の世代」800万人全員が75歳以上、つまり後期高齢者となります。2025年問題とは、超高齢社会が訪れることで生じるさまざまな影響を指します。

団塊の世代は、第1次ベビーブームの時期に生まれ、高度経済成長期にさまざまな分野で中核を担い、日本の成長を牽引してきました。この世代が75歳以上を迎えることで、総人口1億2257万人のうち、後期高齢者の人口が2,180万人に達します。

# 2025年問題が与える 社会への影響

## 2025年問題が与える社会への影響

団塊の世代800万人が75歳以上になり  
超高齢社会による問題が生じる

01

社会保障費の  
負担増加



02

医療・介護の  
体制維持継続



03

後継者不足による廃業  
が経済縮小を加速



04

ビジネス  
ケアラー増加



01：高齢者に支払う社会保障費増加、それを支える現役世代減少。

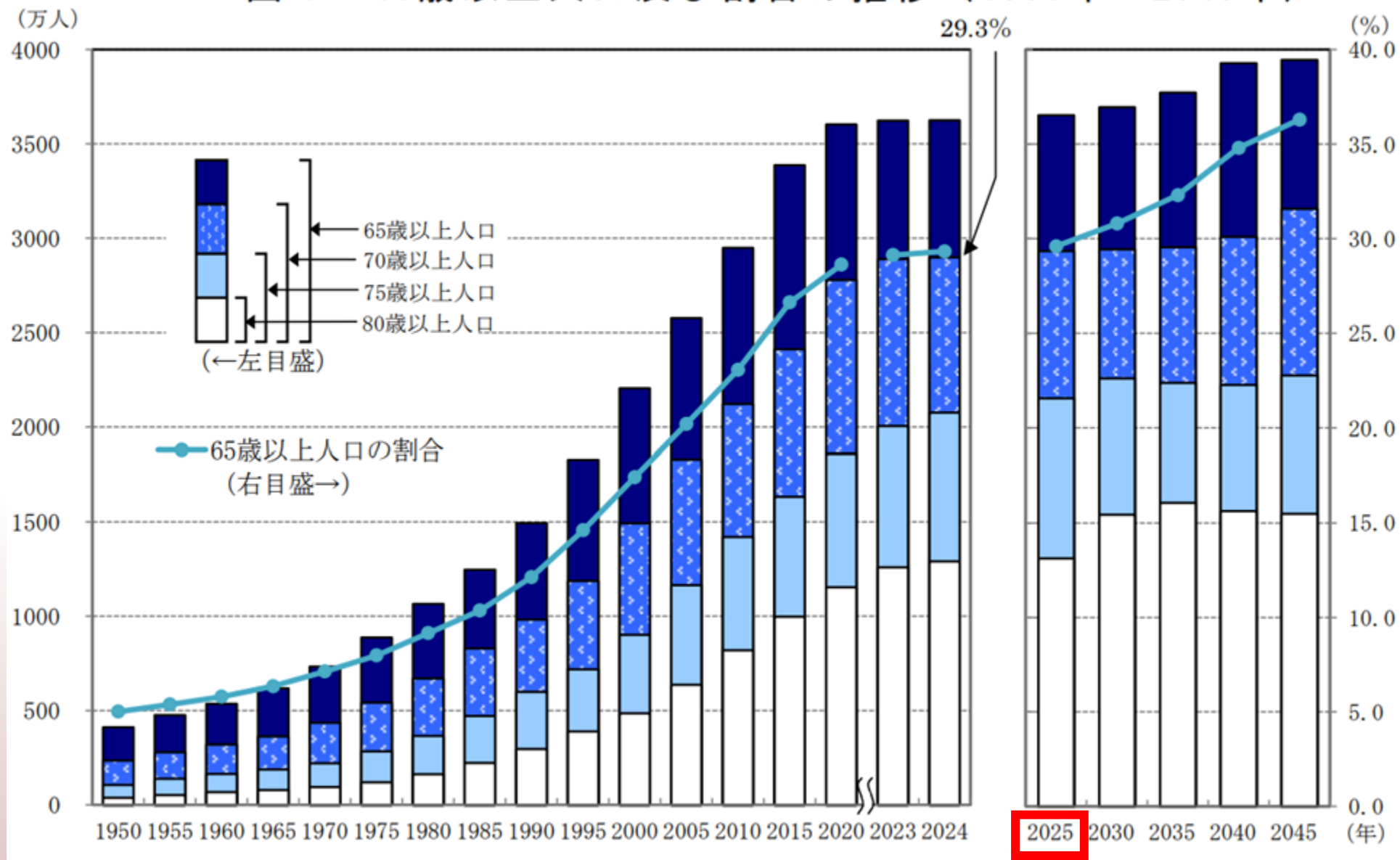
02：医療・介護サービスの担い手不足。2025年には約33万人が不足する見込み。

03：2025年までに中小企業の経営者約245万人が平均引退年齢を超えるが約127万人の後継者が決まっていない。

04：仕事と家族などの介護を両立する就労者の急増。

総務省の推計によれば、65歳以上の高齢者人口は2024年(令和6年)9月、3,625万人で、総人口に占める割合(高齢化率)は29.3%となりました。約3.6人に1人が65歳以上の高齢者です。高齢者人口・高齢化率ともに過去最高を更新しています。我が国の総人口は減少傾向に入っており、高齢化率は今後も上昇を続けることでしょう。

図1 65歳以上人口及び割合の推移（1950年～2045年）



# 足立区の今は？

## その1 足立区の高齢化率

2024年(令和6年)の足立区の総人口は694,725人で、高齢者数は168,956人、**高齢化率**は24.32%となっている。約4.1人に1人が65歳以上の高齢者です。高齢者数は2017年(平成29年)から2020年(令和2年)まで増加を続けていたが、2021年(令和3年)から減少に転じた。高齢化率は2023年(令和5年)の24.51%から0.19%減少となっている。

# 足立区の今は？

## その2 足立区で暮らす高齢者(65歳以上)の要介護状態は？

2024年(令和6年)の要介護(要支援)認定者数は38,722人、そのうち介護サービス受給者数(2024年(令和6年)3月サービス分)は32,176人で、受給率は83.1%となっている。

2019年(平成31年)以降、認定者数は増加を続けているが、受給者数及び受給率については、2016年(平成28年)10月に介護予防訪問介護と介護予防通所介護が介護予防・日常生活支援総合事業に移行となったことから一時減少したが、2019年(平成31年)からは、ほぼ増加傾向にある。



## 要介護・要支援認定者数

2024年(令和6年)3月31日現在、要介護・要支援認定を受けている人数は38,722人で、「要介護2」が最も多く19.9%を占め、次いで「要介護3」が15.5%となっている。

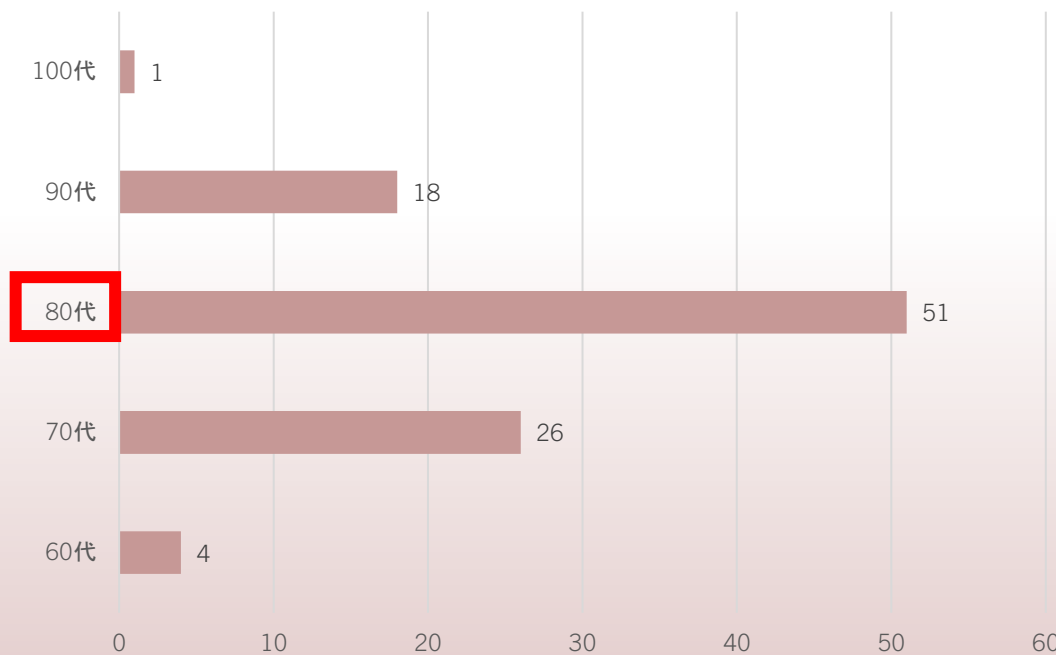
	令和5年度		令和5年度内訳		
	認定者数	比率	第1号被保険者数		第2号被保険者数 (40~64才)
			前期高齢者 (65~74才)	後期高齢者 (75才以上)	
要支援1	4,663	12.0%	581	4,001	81
要支援2	5,942	13.0%	647	4,279	116
要介護1	5,774	14.9%	559	5,137	78
<b>要介護2</b>	7,710	<b>19.9%</b>	890	6,600	220
要介護3	5,993	15.5%	647	5,187	159
要介護4	5,526	14.3%	539	4,882	105
要介護5	4,014	10.5%	402	3,453	159
合計	38,722		4,265	33,539	918
割合		100%	11.0%	86.6%	2.40%

# 「特別養護老人ホームさの」の現状

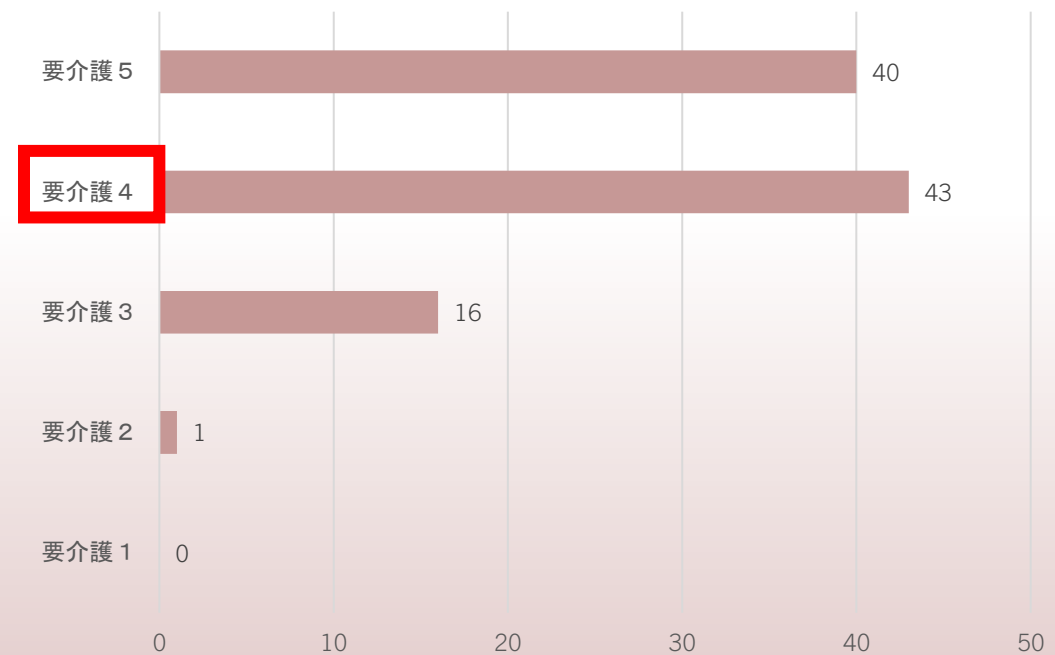
・その1 ご入所者について 【入所者数：100名】

※ショートステイ1日6名

①年齢別グラフ※平均年齢83.4歳



②介護度別グラフ

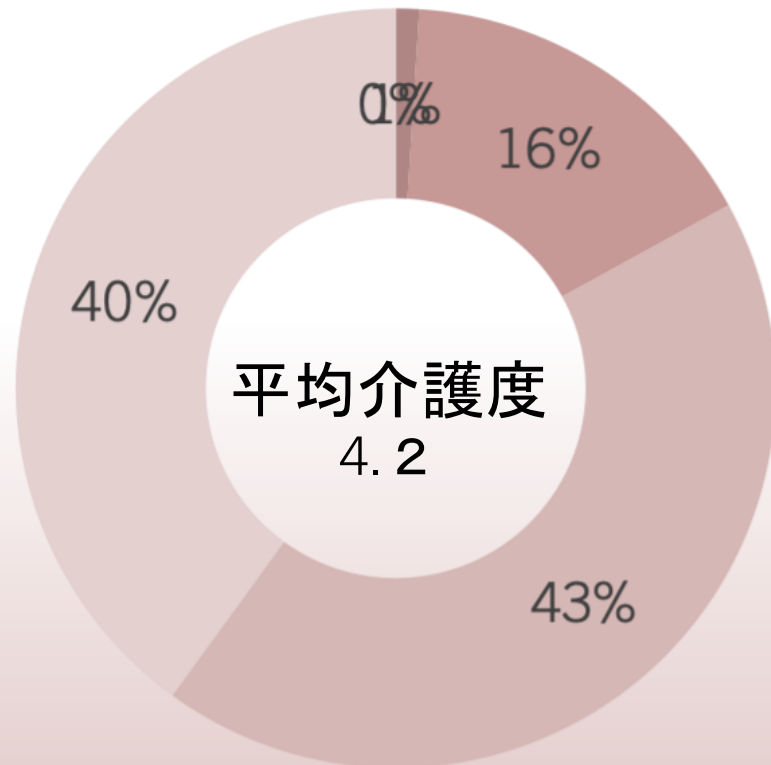


# 「特別養護老人ホームさの」の現状

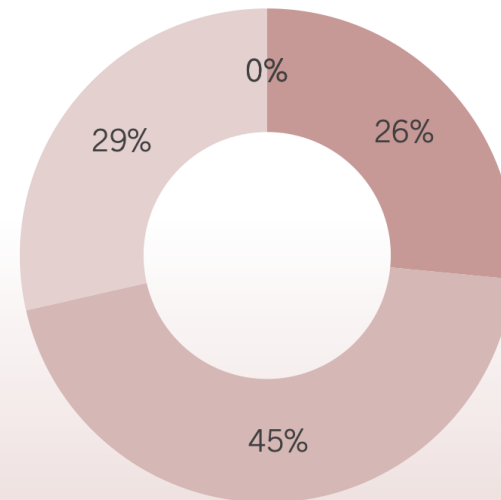
## ・その1 ご入所者について

特養さの

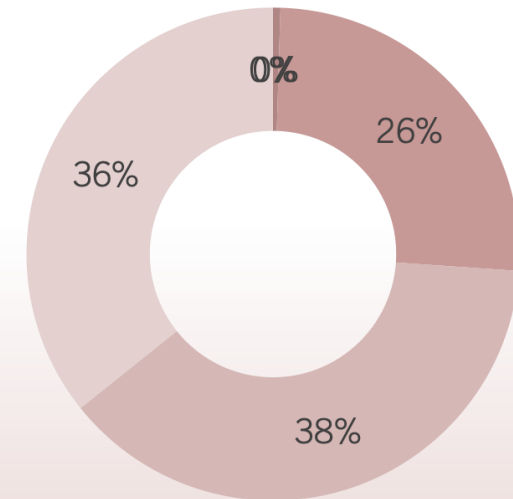
■ 要介護1 ■ 要介護2 ■ 要介護3 ■ 要介護4 ■ 要介護5



他施設A



他施設B



# 「特別養護老人ホームさの」の現状

- ・その2 日常業務について ※夜間帯はご利用者106名に対し、職員5名配置。



離床・誘導・臥床介助

ご利用者1名につき

: 1日4~5回以上

食事準備・片付け・介助・服薬

・口腔ケア

ご利用者1名につき

: 1日3回以上



排泄介助

ご利用者1名につき

: 1日4~7回以上

※過去、15分毎...30回以上あり



入浴介助(2時間)

職員1名につき

ご利用者6名以上

# 「特別養護老人ホームさの」の現状

## ・その2 日常業務について



業務内容は多岐にわたり、24時間、365日、繰り返しの毎日です。

## 介護現場のIT化が推進される理由とは

介護現場でIT化が推進される主な理由は、「人手不足の深刻化」にあります。

生産年齢人口の急速な減少により、あらゆる業界で人材の確保が難しくなりました。介護職は業務内容がハードなこともあり、もともと離職率が高い傾向があります。また、高齢者数が増え、介護需要が増加したことも人手不足の一因と考えられるでしょう。

そのため介護業務を効率化して、人手不足に対応する必要性が高まっているのです。

介護現場をIT化することで、介護業務が全体的に効率化することが期待できます。

# 介護現場をIT化するメリットは

## 業務を効率化できる

例えば、手書きによる介護記録の作成は長時間労働の要因のひとつになっていますが、IT化によって効率化し、介護スタッフの負担を軽減できます。デジタル端末上で介護記録などを作成できるので、ペーパーレス化することも可能になるでしょう。

## 介護サービスの質が向上する

IT化によりスタッフの業務負荷が軽減することで、空いた時間をほかの業務に使えるようになります。利用者一人ひとりに向き合う時間をより多く確保できれば、きめ細やかな介護サービスを提供できるでしょう。

## スムーズな業務連携ができる

IT技術を活用することで、スタッフ同士でスムーズな業務連携ができるようになります。さまざまな情報をシステム内で一元管理し、デジタル端末で情報にアクセスできるためです。多業種で同じデータが見られるので、業務連携がしやすくなります。

# 介護現場のIT化の種類

介護業界に導入が推進されているIT機器には、「介護AI」「介護ロボット」「見守りセンサー」など様々な種類があります。以下に一部をご紹介します。

## 介護AI

例)  
質の高いケアプラン作成  
送迎ルート作成

## 介護ロボット

例)  
ロボットスーツ  
移乗用リフト

## 見守りセンサー

例)  
ベッドセンサー  
見守りカメラ

など…

## 特養さなので導入中の機器

座面センサー  
サイドセンサー  
離床センサー  
移乗用リフト  
天井走行リフト（脱衣室）

**眠りスキャン**

など…



## 見守りシステム「眠りスキャン」について

2024年(令和6年)8月、特養さの107床に「眠りスキャン」という見守りセンサーを導入しました。

眠りスキャンとは、ベッドに設置したセンサーにより体動（呼吸、心拍など）を測定し、睡眠状態を把握するシステムです。

これによりご利用者の生活リズムの改善や健康状態の把握が可能となります。

# 眠りスキャン（パラマウントベッド）



ベッドに設置するだけで  
パソコンやタブレットに  
リアルタイムに状態が映し出されます。



# 眠りスキャン(パラマウントベッド)

睡眠時の状態をリアルタイムで確認 入眠状態、呼吸、心拍数、

在離床などのセンサーで得られたご利用者の状態を、スタッフがパソコンや携帯端末でリアルタイムに確認します。

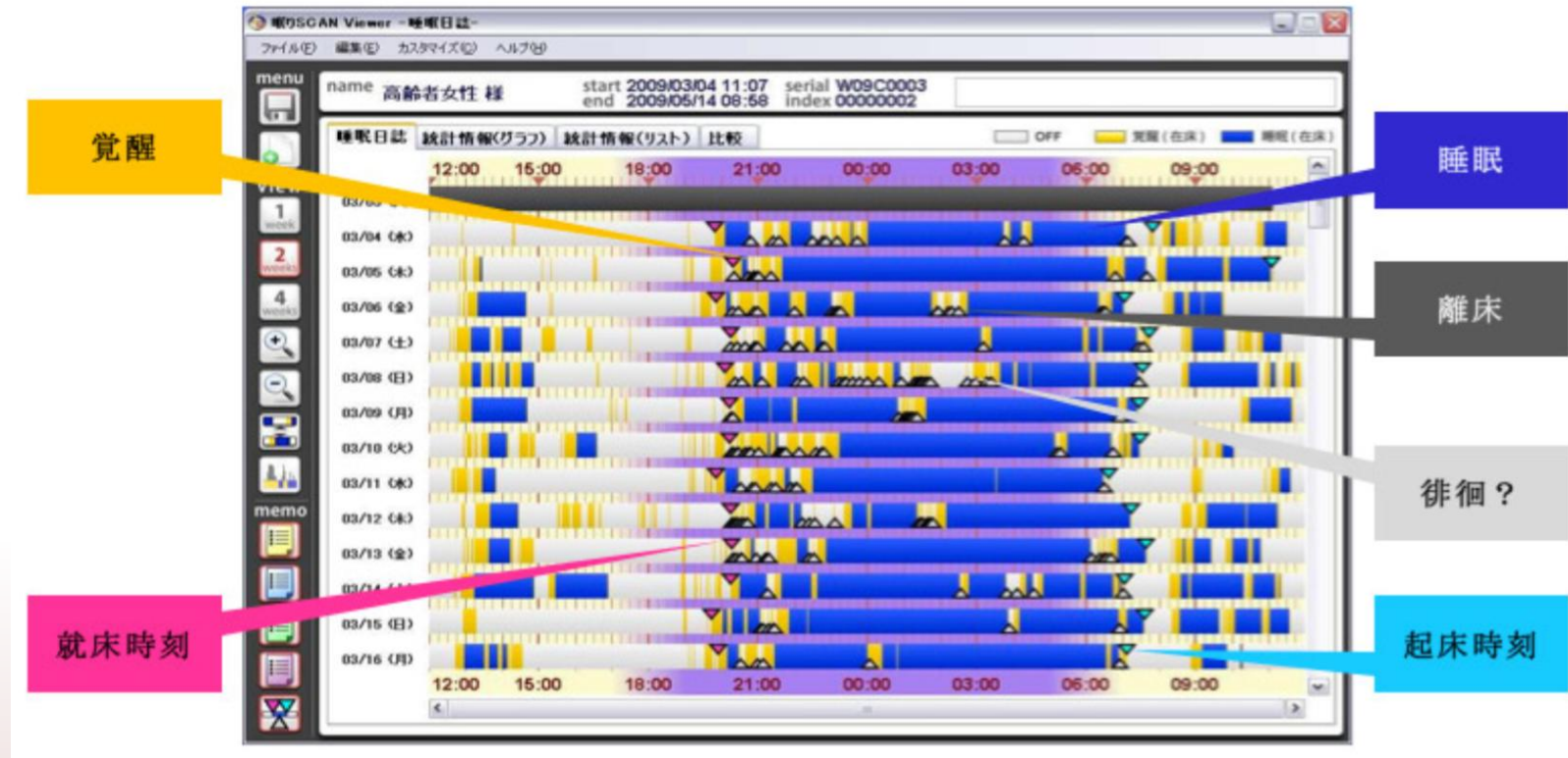
また、複合的な情報が各端末に的確に発信されるのでご利用者ご自身でも気づかない体調変化を把握する助けとなります。

アイコン説明



# 眠りスキャン(パラマウントベッド)

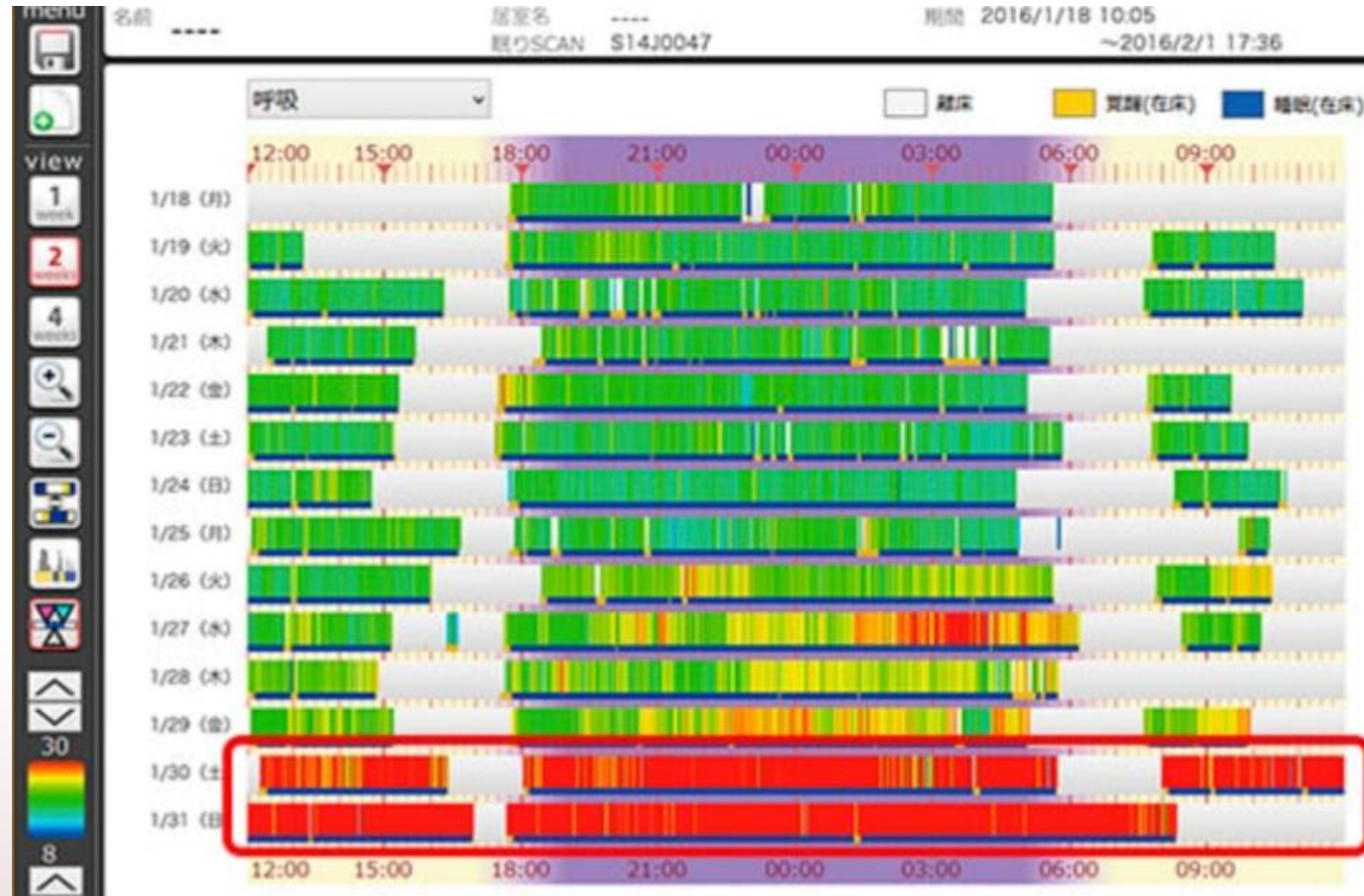
## 睡眠日誌



この機能をつかって ・夜、よく眠れているか？ ・夜間、覚醒する回数は？ ・目覚める時間は？ ・昼夜逆転していないか？ などがわかります。

# 眠りスキャン(パラマウントベッド)

## 呼吸日誌



この機能をつかって 心拍数・呼吸数の推移の変化から体調変化を早期発見することができます。

## 眠りスキヤンの活用

- その1 業務負担改善
  - その2 時間の有効利用
  - その3 看取り期を迎えたご利用者へのメリット
    - 安心：簡易的なバイタル確認が行える
    - 安楽：覚醒時にケアを行える・休息を邪魔しない
    - 早期対応：状態変化を確認次第、ご家族へ連絡し  
最期の時を共に過ごせる
- ※個室にて穏やかな時間を過ごしていただく。  
※ご家族の宿泊も可能。

これからも変化し続けていく

便利な機器を導入し、

他者・他職種・他施設・異業種等と情報交換し

新たなアイデアを取り入れ

取り組みを続けていく。

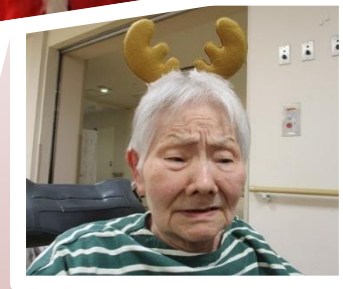
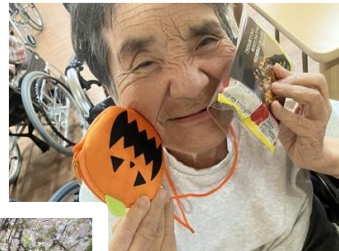
# これからも変化し続けていく

多くのご利用者にとって、特別養護老人ホームは『終のすみか』となります。

三大介護（食事・排泄・入浴）を受けられるだけの生活ではなく、楽しみをもって毎日笑顔で過ごしていただけるように支援していきたい。



# 令和6年11月発足 レクリエーション係



「これからもご支援を賜りますよう  
よろしくお願いいたします」

ご清聴ありがとうございました。

この後、特養フロアをご案内させていただきます。

貴重品は各自お持ちください。